事業所訪問

こんにちは 健保組合です！

京葉港運株式会社の巻

梅雨入りの声も関東地方で聞こえはじめました。この日も朝からぐずついた空模様で、時折、激しく雨が地面を叩いていました。

そんな六月十一日、私たちは今日の目的地である君津市に所在する京葉港運株式会社に、車を走らせました。

同社は、東京湾に面した君津市の臨海地区にある、仕事のうえでも密接な関係をもつ新日本製鐵君津製鐵所（以下、新日鉄）の敷地内にありました。

国道一六号線を経由して新日鉄の西門に到着すると、雨の中にもかかわらず、京葉港運の伊田課長が門まで私たちを迎えに来てくださいました（構内に入るにあたっては、かなり厳しい手続きが必要のようでした）。

雨でしたので、ご挨拶もそこそこに現地に向かうこととしました。新日鉄の構内は一つの街を訪れたようで、案内なしでは迷ってしまいそうな広さでした。

湾岸荷役、船内荷役作業を主な業務として

事業所訪問は、今回で二六回目を数えることとなりますが、今回も貴重な経験ができましたことに感謝しながら社屋に到着、二階の応接室に案内され、私たちはあらためて、健康管理事業等推進委員もされている伊田課長にご挨拶申し上げました。ご多忙中にもかかわらず、同社の吉本社長と、検診等を担当されている高藤課長も同席くださり、取材が始まりました。

冒頭事務局から、組合の現況報告を申し上げると、それに続いて吉本社長から、同社の歴史・業務内容等について説明がありました。

京葉港運株式会社は、昭和三十六年十月に新日鉄君津の建設にともない、永年にわたり同社製品の港湾運送事業に携わってきた専属指定業者が結集して設立されたとのこと。その後、新日鉄の製品輸送を一括元請する製鐵運輸株式会社が設立されたことにより、この体制に協力する形で湾岸荷役、船内荷役作業を主な業務とされているそうです。

社員の方々の勤務形態も三交替制をとっているということに加えて、船舶部門ももたれ、労務管理についてもかなりご苦労されておられるようでした。

左から吉本社長、伊田課長、高藤課長

従業員の健康を危惧され成人病予防検診を本格化

このあたりから、健康管理等について話題が移行しました。

前述した複雑な勤務形態や従業員の高齢化が要因となり、吉本社長は着任（平成六年）当時から、従業員の方々の健康問題を危惧されておられたようです。

伊田、高藤両課長を中心に検診項目の充実を検討され、いかに有効な検診を実施するかが最重要課題となっていたようですが、いよいよ本年度から健康保険組合の実施する成人病予防検診とタイアップする形で本格的に始められたようです。

社のトップが健康管理に関する動機づけを行い、それに連携して幹部スタッフの方々が方策を講ずるというのは、理想的なスタンスではないでしょうか。

自ら万歩計を携帯され、健康者表彰の対象者に

私たち事務局も、できる限りの協力はさせていただくのはもちろんのこと、検診後のフォローをさせていただきながらその効果を長い目で見守りたいと思います。

輝く安全無災害記録!!　S54年7月4日内閣総理大臣賞（国民安全功労賞）

吉本社長は以前、他の健康保険組合の理事を経験されていたということで、健康保険組合に関して精通され、私たちも心強く感じたのでした。それに、驚いたことに、健康管理を自らが率先して実行するために、万歩計を携帯され、毎朝（悪天候の日でも）散歩を欠かさないとのことです。その成果が、組合の保健事業の一環である健康者表彰の対象者になられたことでした。

「今後も、大きな合理化の渦中で経営は厳しい」と語られましたが、人の健康を重視して生産性を高め、さらには人間関係の調和を図りながら、働きやすい職場環境づくりに傾注されていることで、今後も健全経営が約束されることでしょう。

こうして静かな口調のなかにも、独自の経営哲学を熱く語ってくださった吉本社長をはじめとした皆さまと過ごした貴重な時間に、ピリオドを打つこととしました。

折しも昨日（六月十日）は、時の記念日でありました。貴重な時間を取材に割いていただいた皆さま、本当にありがとうございました。

◆　◆　◆

本誌が皆さまのお手元に届くころにはそろそろ梅雨も明け、夏休みの計画を立てられているころでしょうか。今年はどんなプランをおもちですか。どうぞ、来る夏をご堪能ください。

話題は変わりますが、これも皆さまがこの記事を読まれるころには、すでに経験されたこととなる歴史的セレモニー「香港返還」をどのように受けとめられたでしょうか。

東西冷戦終結後、歴史の波はいよいよ、わがアジアに押し寄せてきています。われわれ日本人は平和慣れしてしまいましたが、波に流されないよう自分を見つめ直したいものですね。